

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた遠隔授業の取組みについて

A Study about a match of remote education which corresponds to COVID-19 expansion

池村 努

北陸学院大学短期大学部 コミュニティ文化学科

Hokuriku-gakuin Junior College Community and Culture Department

Email: ikemura@hokurikugakuin.ac.jp

あらまし：2020年度のCOVID-19（新型コロナウイルス感染症）拡大を受けて、多くの高等教育機関が対応を迫られた。感染拡大地域においては対面授業を行なうことが困難なケースも見られた。著者が所属する大学は比較的感染状況が落ち着いていたため、十分な配慮を加えながら対面授業を取入れることができた。本稿では対面授業と遠隔授業を併用するにあたり、本学ではどのようなプロセスを経たのか、またどのような対応を取ったのかについてまとめ報告する。

キーワード：遠隔授業、併用、COVID-19、環境整備

1. はじめに

2019年が間もなく終わろうというタイミングで、新型コロナウイルスに関するニュースが世間を賑わせ始めた。さらに感染すると重篤な症状を発することが確認されると、どのようにして感染拡大を防ぐのかということが話題になるようになった。それでも当初は季節性インフルエンザのように夏になると感染は治まると期待する声も聞かれた。しかし夏を迎えても治まるところか状況は更に悪化し、社会生活にも多大な影響を及ぼすようになってきた。この状況は2021年度になっても続き、さらには第4波では過去最大の感染者数を記録する自治体も見られるようになってきた。

このような状況下で、東京や大阪、北海道などと較べると比較的感染状況が落ち着いている石川県の小さな大学では、感染状況を確認しながら授業の質を落とさないよう工夫して対応を進めてきた。本稿ではどのような対応を取ってきたのかをまとめ、今後の対応への参考材料とする。

2. 社会の変化

2020年1月に国内で初感染者が確認され、更に「人から人へ」の感染が報告されると、ニュースやワイドショーは新型コロナウイルス感染症一色になり、社会は大きな不安を覚えた。1月31日に新型コロナウイルスによる感染症が「指定感染症」に指定されると、これに合わせた行動を求められるようになってきた。大学に関連した項目に限ると、卒業式の実施について影響が現われた。3月24日には文部科学省からの通知が行なわれ、各大学では2020年度の授業について急ぎ検討をおこなうことになった。4月に入ると文部科学省から臨時休業に関するガイドラインが通知され、2020年度の授業開始について大学独自に準備をする動きが開始された。そして4月7日に感染拡大を受け7都府県に対して「緊急事態宣言」が発効されたことに伴い、授業開始を延期

する大学が多くみられた。そして手探りしながら対面授業と遠隔授業を取入れながら2020年度を終え、2021年度を迎えることになった。

この間、都市部の大学の中にはキャンパスでの授業を行わず、遠隔のみで授業を行なうケースなどもあり、従来の授業形態から大きく変化した一年間となった。そのような中で教員は様々な工夫をしながら教育活動を行なってきた。学内FD活動においても遠隔授業の効果的な進め方に関するminiFDが複数回開催され、相互に研鑽を積むことができた。何より「やってみれば何とかなる」という発見も多くあったことが収穫であった。

3. 本学の取組み

本学は3月末の段階では、十分な対策を取った上で4月からの対面授業を行なう予定でいた。4月3日に北陸学院としての基本方針「感染者を出さない」「感染を拡大させない」「迅速に対応する」を定め、学内外に示した。

教室あたりの座席数を減らし、ソーシャルディスタンスを確保する。従来講堂として使用していた場所に机と椅子を配置し、大教室とする。各教室入口に消毒用アルコールを設置すると共に、三密回避と手指消毒啓蒙のポスターを各教室に掲示する。食堂の椅子を間引き、使用していない教室で食事を摂ることを認めるなど対策してきた。しかし感染拡大を受けて登校しての授業開始を4月20日に延期する決定が下された。同時に自宅で課題に取り組み、登校後科目担当者に提出する代替授業の導入についても検討がおこなわれた。

授業開始延期を受けて、遠隔授業導入についての取組みも拡大した。それまでオンライン授業を行なっていなかったことから、手探り状態での導入となったが、もともとGoogle社と「G Suite（現Google Workspace）」ライセンス契約を結んでいたことから、情報システム室が主体的にGoogle Classroomや

Hangouts Meet の利用法についての紹介を行っていた。結果として、新たに Microsoft Teams や Zoom ライセンスを取得するのではなく、G Suite を活用した遠隔授業の実施について決定を行なった。改めて「新型コロナウイルス感染症対策のための代替授業実施におけるガイドライン」を定め、学生と教員に対して告知した。同時に学科単位で学生の自宅におけるインターネット環境調査も行なわれた。全学生が備えているわけではないが、大多数の学生はインターネット環境を備えていることが確認できた。また自由に使えるパソコンを所有している学生も一定数いることが確認された。このことからスマートフォンを用いた遠隔授業実施の可能性も視野に入れることになった。

そのような検討を進めていたが、近隣大学の動向も参考にしながら、対面授業の再開を6月1日に延期することになった。これに合わせて対面授業実施時における過密状況回避について検討が重ねられた。その結果、「2020年度前期対面授業の方針について」を定め一コマあたりの総履修学生数（4学科全学年の履修者数）上限を全在学生の5割程度にするという方針に沿って計画を立てた。これも始めから5割にするのではなく、段階を踏むことを検討しロードマップを作成した。ステップは以下の通りである。

【ステップ1】6月1日(月)～6月12日(金)は3割程度を目安とする

【ステップ2】6月15日(月)～6月26日(金)は4割程度を目安とする

【ステップ3】6月29日(月)～7月10日(金)は5割程度を目安とする

同時に授業内容についても対面授業と遠隔授業を交互に取入れることにした。これにより登校する学生の数を制限することができた。また科目の種類によって代替授業を行えないケースも想定し、講義系科目は授業回数の5割以上を代替とすることを目標とし、演習・実習系科目は少なくとも2回程度代替授業を行なってもらう事を方針として定めた。これを各学科で集約し、最終的に大学・短期大学教務部長と、教学・学生支援センター長、教学・学生支援センター員で確認した上で、必要に応じて科目担当者に調整を依頼して実施した。

この方針は後期も継続して導入した。後期は対面授業と遠隔授業の割当てについて、大学短大合わせて4学科あるものを、学生数が凡そ均等になるよう学科で分け対にして対面週と代替週を設定した。学期初めに前述のメンバーで調整会議を行ない、小変更を織り込み確定した上で一月ごとに学生に提示した。

代替授業のため学内で学生がスマートフォン等を使う機会が増えることを受け、学内設備の強化として無線アクセスポイントの増設を2020年5月に実施した。接続する際には申請が必要となるが、各教室でもWi-Fi機器を接続できる環境が整った。逆説

的にいうとそれまでの本学の遅れがあらわになったとも言える。

2020年度10月に代替授業の方針について再検討し、Google Workspace の活用を進める決定を行なった。それを受けて希望学生にChromebookを貸与する方針を決定した。2021年度入学生については全員に貸与を行ない、最終的に短期大学部学生はほぼ全員が自前のノートパソコンかChromebookを所持し、オンライン授業の環境を整えることができた。

4. 課題

本学での対応についてまとめてきたが、すべてスムーズに進んだわけではない。まず、教員側の課題は機器になれないことが課題だった。もともとGoogle Workspaceはごく一部の教員が使っていたが、コロナ禍のため望むと望まざるとにかかわらず導入することになった。そのためICT機器に対する習熟度の差が現われてしまうことになった。また新しいことに対する意欲も個人差があり、miniFDでICT機器の勉強会を行なっても、興味を持って参加するのがほぼ同じメンバーに限られていることもあった。これは年齢とは無関係で、壮年期の教員にもその傾向が見られた。

同じように学生の間にもICT機器への習熟度の差が見られた。デジタルネイティブとも呼ばれ、情報通信機器が当たり前存在する中で育った世代なので、貸与後すぐに使いこなす学生もいる一方で、戸惑いを見せる学生もいた。

またどちらにも共通の課題として、Chromebookに対する慣れの問題もあった。Windows環境に慣れた者にとって、難しくないとはいえChromebookの操作系はハードルになったようである。

Google Workspaceと別に、教員の中には対面授業に対するこだわりを持ち、代替授業の導入をお願いしても聞き入れられないケースも見られた。心情としては理解できるが、感染対策としてお願いをしている関係からそのしわ寄せが他の授業に及ぶこともあり、調整する側として悩むところであった。

5. 考察

最後に、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて様々な課題が生じ、それに対処してきた。幸いなことに本学学生の感染者は3名に留まり、教職員における感染も発生していない。これを感染対策が功を奏したからとまとめることはできないが、教職員、そして学生一人ひとりが危機感を持って対処してきた結果と考える。

遠隔授業の課題提供ツールとしてGoogle Workspaceを活用してきた。他のツールと比較したわけではないが、必要なツールが揃っていることから遠隔授業をする上では十分な機能を備えていると考える。今後も工夫を加えながら授業改善を行なっていきたい。